

第三節	<p>■工場手工業の二つの基本形態—製品の性質から生じる。</p>		p281
	<p>□工場手工業の特徴点</p>	<p>1、異種的工場手工業—個人的生産物⇒無数の部分労働者の社会的生産物へ転化[例・時計生産] 資本の指揮下での部分労働者の直接の協業</p> <p>2、有機的工場手工業—一系列の段階的諸過程を通過する製品[例・縫針生産—72～92種の連続的作業過程。]</p> <p>・一段階から多段階への製品移行時間短縮。労働の減少。生産力増高、協業による利益。 異なった生産段階のの分立化と、一つの過程から多の過程への製品の運搬。大工業から見れば、この製品の運搬は、工場手工業に内在する制限である。</p> <p>・工場手工業は協業ではあるが、その作業の分解によって創造され、他方同じ労働者を同じ細部に固着させることによつてのみ労働過程の社会的組織を達成する。</p> <p>・各部分労働者の部分生産物は同じ製品の一つの発展段階。一労働者群は他の労働者群に原料を供給。 一労働者の労働成果は、他の労働者の労働のための出発点。</p> <p>・独立手工業、単純な協業とさえも異なる、労働の連続性、一様性、規則性、秩序および労働の強度が産出。</p>	p284
	<p>□生産過程の技術的法則 部分機能と全体</p>	<p>・商品生産一般では、一商品の生産に必要な社会的労働時間の支出は、競争の外部的強制として現れる。各個の製品を市場価格で売らなければならない。これに対し工場手工業では、与えられた労働時間内で与えられた生産物を供給することは、生産過程そのものの技術的法則となる。[労働群の構成の量的、規則的比例関係。数学的比率。]</p>	p285
	<p>□種々の工場手工業の結合</p>	<p>・種々の手工業の結合から発生した工場手工業は、種々の工場手工業の結合にも発展する。 [例・鉛ガラス工場手工業—生産手段・原料と生産物のそれぞれの工場手工業との結合。結合工場手工業]</p> <p>・結合工場手工業は、多くの利益をもたらすが、何らの現実的な技術的統一を獲得していなこの統一は、工場手工業が機械経営に転化するとき、初めて生じる。</p>	p286
	<p>□機械の使用へ</p>	<p>・商品生産の必要労働時間の短縮＝工場手工業の意識的原則 機械の使用へ。初歩的には大量的、大きな力の支出の遂行。[例・製紙工場—ぼろの粉砕機、製紙用圧碎搾機][機械装置の原動力—水車、羅針盤、火薬、印刷術、児童時計] 17世紀に散見する機械装置の応用が極めて重要なものになったのは、大数学者たちに近代機械学創造への手がかりと刺激を提供したからである。</p>	p287
	<p>□労働力の等級 不熟練労働と熟練労働者</p>	<p>・労働者は主要な特性に応じて区分、分類、編成され、労働力の等級制をはってんさせ、労働賃金の階梯が対応する。 工場手工業は不熟練労働者の一階級を生み出す。熟練労働者と不熟練労働者の区別が生じ、いずれの場合も労働力の価値は低下する。</p>	p290
第四節	<p>■工場手工業内の分業と社会内の分業</p> <p>□分業の定義</p>	<p>1. 一般的分業—農業、工業、商業など大部門の社会的生産の分割。</p> <p>2. 特殊的分業—生産部門の種、亜種への分割。</p> <p>3. 個別的分業—作業場内の分業。本来の意味の分業、作業分割。</p>	p291
	<p>□社会内分業と発展</p>	<p>・家族内部⇒種族内部に。性と年齢の差異、生理的な基礎の上に自然発生的分業発生。共同体の拡大、人口の増大、部族間闘争、他部族による征服に伴い分業を拡張する。</p>	p296
	<p>□生産物交換</p>	<p>・種々の家族、部族、共同体の接触地点に、生産物の交換が発生。異なる共同体の異なる生産手段と生活手段、異なる生産様式、生活様式、生産物。相互の生産物の交換、生産物の商品への漸次的転化を引き起こすものは自然的 差異である。</p>	p296
	<p>□社会的分業の成立</p>	<p>・元来相異なる、相互に独立した諸生産部門爛の交換によって、社会的分業が成立する。 すべての発展した商品交換によって媒介された分業の基礎は、都市と農村との分離である。</p>	p296